**説教20230813ローマ9：1-5マタイ14：22-33「主よ、助けて下さい」**

**「主よ、助けて下さい」「主イエスよ、助けて下さい」と言って、いつでもどこででも、私たち人間が信仰告白することを、イエス様は、大変お喜びになります。**

**それは、その場の空気を読んで、周りの人たちの気持ちを忖度しながらとる行動とは対極にある行動です。そのことは、今日のマタイの聖書箇所をよく読めばわかることです。ペトロは、イエス様のほうへ、水の上を進んでいる時、強い風に気が付いて沈みかけましたが、その時、彼は、救い主イエスキリストに向かってなりふり構わず、「主よ、助けて下さい」と叫んだのであります。**

**私たちが主の日に信仰告白しています使徒信条も、こういったように、なりふり構わないで、イエス様にただただ救いを求めながら告白するべき信仰であります。**

**さて、信仰告白には、様々な文言がありますけれども、今日の聖書箇所でしたら、「主よ、助けて下さい」に続いて、舟の中にいた人たち全員が口にした、「本当に、あなたは神の子です」という言葉も一つの信仰告白です。ペテロ一人の「主よ、助けて下さい」という告白から始まって、「本当に、あなたは神の子です」に至る信仰告白の流れには、本当にイエス様が、私の救い主であり、同時に全ての人間の救い主でもあるという一つの神秘が表現されていると思います。**

**私たちは、嵐の中で沈みそうになって自分の命が失われそうになる時、「主イエスよ、助けて下さい、私の命を救ってください」と祈ることでしょう。嵐の中で切羽詰まった時、私たちは、恐れや怖さに取り巻かれて、視野は狭くなり、自分のことしか考えられなくなって「主イエスよ、助けて下さい」と叫ぶのでありますが、それは「主イエスよ、この私を助けて下さい」ということでありましょう。**

**さて、イエス様は、この様に自分本位に助けを求めてすがりついて来る人を大変喜ばれます。なぜかと言いますと、イエス様は神様であり、すがりつく人を間違いなく助けることが出来る方だからです。イエス様はペトロから初めて、今に至るまで、イエス様にすがりつく人たちを一人一人、一人づつ、救いの道へ招いていて下さるのです。**

**そんな自己本位に助けを求める憐れな私たちですが、イエス様はそんな私たちが助けられた後に全員で口をそろえて、「本当に、あなたは神の子です」と信仰告白する口をも与えて下さいます。**

**この様にして、私の救いは、私たちの救いと、広がっていくのでありますが、それは私たちの主イエスに対する信仰が確かであればあるほど、広がっていくのです。**

**教会の土台は、私たち一人一人の信仰告白であります。私たちが救い主として信仰するのはイエス様ただお一人であります。私たちが信仰するのは、人物や、壮大な景色、荘厳な建物、或いは教会なのではなく、ただ主イエスお一人を救い主として信仰するのです。そうしますと、その信仰が告白されるところに、教会と言う集まりが形作られていくのです。**

**今、世の中にも、家庭にも、そして一人ひとりの心の中にも、嵐が吹き荒れている状況があります。そうした状況の中、私たちはどうしたら救われるかと言いますと、それは時と、処を構わないで、いつでもイエス様を隣にお招きして、「主よ助けて下さい」とイエス様に助けを求めることであります。**

**今日のマタイの聖書箇所では、初め、イエスは弟子たちを強いて舟に乗せ、向こう岸へ先に行かせ、その間に群衆を解散させられた。という場面から始まります。イエスは弟子たちだけをを強いて舟に乗せ、御自分は祈るためにひとり山にお登りになり、夕方になっても、ただひとりそこにおられたのであります。この時、イエスは弟子たちと別れて、一人になりたかったのでした。イエスは一人になって、天にいます父なる神と語り合いたかったのでした。**

**私たち人間にとりましても、時に一人になって、主イエスと二人きりで祈り合い、語り合うということが必要であります。そしてその時間と言うのはイエス様を知れば知るほど有意義で楽しい時間となることでしょう。**

**そののち、舟の上の弟子たちは、湖の沖のほうまで来た時、逆風のために波に悩まされることになりました。その弟子たちが苦境にある時に、イエス様は、弟子たちの処へと来ていました。奇跡によって、イエス様は湖の上を歩いて弟子たちのところに行かれたのであります。**

**弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、「幽霊だ」と言っておびえ、恐怖のあまり叫び声をあげました。怯えている弟子たちに対してイエス様は「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」と話しかけられました。**

**神さまイエス様は奇跡の人であります。信じる者たちには、たくさんの様々な奇跡を恵んで下さいます。イエス様は、たくさんの奇跡を通して、私たちを救いの道へと導き、おびえや恐怖から解放して、遂には、この世の死の先にある、復活した永遠の命に生きるという奇跡を恵んで下さるのです。**

**おととい、大分地区の教会で集まりがありまして、山の中の玖珠教会と言うところに１８人の人たちが、主イエスによって集められました。不老町教会からはミカちゃんも参加されました。子ども達が４人集まって、良い交わりの時が与えられました。但し、手品をして下さった先生のすぐそばに近づいて、手品のネタ晴らししようとしたときは焦りましたが、全ての出来事が主に守られ、恐れることなく安心して過ごすことが出来ました。**

**こういった主イエスにある集いにおいて、私たちの言葉は主イエスに聞かれているのです。ペトロは舟の中から主イエスに次の様に言いました。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」**

**ペトロと言うのは、特徴がある個性的な人物で、十字架に向かう主イエスに対して、「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」と言って、いさめるほどの大胆な人物であります。「主よ、あなたでしたら、わたしに命令して、水の上を歩いてそちらに行かせてください。」というこの時のペトロの発言も、主に大胆に近づきたいというすごく良い発言でありますけれども、それから、近づいていくうちに、おぼれそうになって、冒頭で申し上げました「主よ、助けて下さい」というペトロの信仰告白が聴かれるのであります。**

**私たちは、嵐の中で、人間的な計画によっては、社会も、又、一人ひとりの人生も前に進めなくなるという状況に至ることがあります。そんな時に、このペトロの様に、イエス様に向かって大胆に発言し信仰告白を出来る人は幸いであります。ペトロは嵐の中で沈みかけながらも、決して沈むことがありませんでした。それは、彼が主イエスに向かって叫び、主イエスのほうへと近づいていったというその方向性が、あっていたからです。そして彼は、確実に主イエスによって捕まえられ、決して間違った罪の方向へとは向かわなかったのでした。**

**主イエスは、ペトロに対して、「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか」と言われて、二人は舟に乗り込みました。そして、二人が舟に乗り込むと、風は静まりました。**

**舟の中にいた人たちは、「本当に、あなたは神の子です」と言ってイエスを拝みました。船の中にいた人たち、というのは教会に集まっている人たちのたとえでもあります。この人たちは舟の中から、イエス様とペトロとのやり取りの一部始終を見て、益々、「本当に、あなたは神の子です」という信仰を固くしたのでした。なぜ二人が船に乗り込むと、嵐は静まったか言いますと、それは湖の上で、舟の中で、そして一人ひとりのうちで、主イエスによって嵐が静められたからでした。**

**さて、今日のマタイの聖書箇所で、私たちの信仰告白が、ただ一人の信仰から、全ての人が分かち合う同じ信仰へと広がっていく様子を読み取ることが出来ました。その広がりと言うのも又、主イエスの奇跡の御業と言うしかありません。**

**私たちは、見て参りましたように、先ずは、自分自身が主イエスに向かって「主よ、助けて下さい」とすがるのが良いのですが、時に、そのような一見自分勝手にみられるような信仰の在り方を、私たち自身が拒んでしまうということが起こるかも知れません。それは人間的な思いからすれば当たり前に抱かれる心情かも知れません。パウロもそのような心情を次の様に、今日のロマ所の箇所で吐露しています。**

**ローマの信徒への手紙9章2節以下**

**わたしには深い悲しみがあり、わたしの心には絶え間ない痛みがあります。**

**わたし自身、兄弟たち、つまり肉による同胞のためならば、キリストから離され、神から見捨てられた者となってもよいとさえ思っています。**

**パウロは、この深い悲しみと痛みの心情が、聖霊の神によって与えられたのだと言っています。**

**パウロは、血がつながった親類縁者のことを具体的には聖書に記しませんでしたが、この個所では、その血縁の人たちが救われないことに対して、深い悲しみと痛みの心情を抱いている事を吐露しています。そしてその心情をも神様がお与えになったことであると言っています。**

**主イエスの憐れみは、主イエスから離れていく人達にも向けられています。私たちは深い悲しみと痛みの心情を抱きながらも、主イエスに向かって「主よ助けて下さい」という信仰告白を辞める者ではありません。私たちに出来ることは、そのようにして信仰が広まっていって、集まって「本当に、あなたは神の子です」と口をそろえて信仰告白するようになることです。私たちは主イエスの計り知れない憐れみを信じて、深い悲しみと痛みの心情を抱きながらも、そのように、主イエスによって、隣りの人たちと共に救われていく信仰の道を歩んで参りましょう。**

**有名な聖句ですが、使徒言行録には次の様に記されています。使徒言行録/ 16章 31節「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも、家族も救われます。」**

**これは、牢の看守たちが、囚人たちを逃してしまって、自殺しようとしていたときに、パウロ達が彼らに言った言葉です。この命が危うくされている絶体絶命の時に「主よ助けて下さい」と言って主にすがりなさいとパウロは言うのです。そのようにして自分自身が救われた後に、それを見た家族たちも次に救われるのです。**

**「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも、家族も救われます。」このことを私たちが信じて告白し、益々「本当に、あなたは神の子です」と信仰告白する兄弟姉妹が増し加えられますよう、この一週間を歩んで参りましょう。**

**祈り**

**父なる神よ、御子イエスは、いつどこででも、悩める私たちを探し出して、救いの御手を差し伸べていて下さいます。どうか私たちが素直に、主よ助けて下さいと告白して、その救いの御手にすがることが出来るようにして下さい。**

**又、あなたは、一人ひとりの名前を呼んで、この教会の集まりへと招いて下さいました。その大いなる恵みを覚え、あなたに感謝と賛美を捧げます。「本当に、あなたは神の子です」と口をそろえて告白出来る幸いを覚えます。どうか益々私たちが御子イエスと親しいものとされ、イエスの為に生き働く者たちとさせて下さい。**

**この世にあっては喜びと共に、深い悲しみと痛みがあります。しかし私たちには御子イエスの十字架によって、悲しみ、痛みが癒され、それを乗り越える道が与えられています。今日又、罪赦され、新しい命に生きようとする私たちを、あなたが豊かに祝し守って下さいますように。**